

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

和庄中学校区 校番10 学校名 呉市立和庄中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期 (1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
*** 費	学力の向上	分かる授業を創る	「授業はよく分かる」の設問に「よく当てはまる」と答えた生徒は上半期に比較し2%上昇し、69%となり、ある程度和庄中学校授業モデルが定着しつつある。また、指導方法等改善計画における「検証問題」の達成度は、「国語」が104%と93%、数学が106%、英語は114%と200%となり、おおむね目標を達成した。正答率に課題がある設問に対して、その原因を分析し、適切な学び直しが行われたことができたと考える。	今年度、課題があった設問に関して、情報を取り出して説明したり、自分の考えを根拠に基づいて表現したりする力をつける活動をカリキュラムに適切に位置づける。 また、来年度版「和庄中学校区授業モデル」を小中でそれぞれの課題に対して系統的に取り組むことができるよう見直しを行う。
		思考を働かせる場をつくる	「防災教育を自らの課題として考えることができた」の設問に「よく当てはまる」と答えた生徒は上半期の60%から62%となった。市役所等と連携し、実践的な学習内容となるよう工夫した結果と考える。	系統的・計画的な実施となるようカリキュラムの見直しを行うとともに、生徒主体で学ぶことができる内容となるよう、学習内容を工夫していく。
** 費	「和庄中学校区スピリット」に基づく生徒の育成	礼儀正しく節度を守る生徒を育てる	「粘り強くやり抜くことができる」と答えた生徒は上半期の42%から38%(肯定的評価では78%)となった。また「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒は上半期の55.3%から53%であった(肯定的評価では90%)。粘り強くやるという言葉が抽象的であり、どのような姿が成功例なのか理解できていないと考えている。	生徒の意識づけの部分で課題が残ったと考えている。来年度は教職員の声掛けを一つのテーマとして徹底していきたい。具体的には学級・学年通信、掲示物等で視覚的にすること。それを踏まえて肯定的な声掛けをどの教職員も心がけることで、自己肯定感を高めていきたい。
		学校や社会に貢献する生徒を育てる	「生徒会活動は、学校や地域に役立っている」と答えた生徒は上半期の47%から63%(肯定的評価では92%)であった。学校行事等が多かったこと、それに伴い、学級・学年の一体感を感じたことで数値が上がったと考えられる。	生徒会活動の充実、学校行事等は生徒の意欲を高めることが改めて分かった。来年度は「振り返り」を徹底していきたい。なぜならば、生徒会活動等で高まった意欲が、振り返りが不十分になってしまうと、記憶、力として定着できない傾向にあるからだ。
* 費	健康増進・体力の向上	メディアコントロールを推進する	「メディア等の使用時間を決め、計画的に使用している」の設問に「よく当てはまる」と答えた生徒は25%であった。使用時間や、使用目的(家庭学習に使用する等)が違うため、一概に否定的にとらえるべきではないと考える。	小中で取り組んでいる生活習慣について、チェックカードの内容を協議・確認し、統一形式で9年間見通した指導が必要と考える。
		体力を向上させる	3種目のうち、「持久走」は目標値を達成したが、「50m走」と「ハンドボール投げ」は未達成であった。主な原因として、保健体育科の年間指導計画での単元の順番や取り扱い内容による運動機会の減少、コロナ禍による運動習慣の二極化の拡大、及び部活動の活動時間の減少などが考えられる。	保健体育科の授業での身体活動量を十分に確保し、特に瞬発力の向上を目指した補強トレーニング等を行い、目標値に達していない生徒の記録向上を目指していく。また、目標値に達している生徒は、これまでの運動を継続していく。
働き方改革	教職員が主体性・積極性が発揮できる教育環境の整備	児童生徒と向き合う時間の確保	生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合は67%であった。突発的な生徒対応が減少したものの、病気休暇に伴う講師の赴任に時間がかかったため、伸び悩んだ。	平素からの積極的な生徒指導を進めることで問題行動を減少させていくとともに、共通理解を図ったうえでの指導と組織的な対応を強化していく。
		長時間勤務の削減	時間外勤務が月45時間までの教職員の割合は10月50%、11月63%、12月60%、1月55%であった。文化発表会などの行事や免許外の指導、進路事務などで超過することとなった。また、持ち帰りの仕事が多く今回の調査に反映されていない者もいると考える。	日々の業務について、リストの作成と優先順位を決めるなど、時間の管理を徹底し、業務改善を図っていく。分掌の役割分担の見直しを行う。ICTを活用した業務改善を図る。